

第4学年 特別の教科 道徳学習指導案

1 主題名 長所をのばす（A：個性の伸長）

（教材名：つくればいいでしょ 出典：生きる力3【日本文教出版】）

2 目標

長所は、その人が元々もっているものだと思いがちだが、努力次第で作ったり伸ばしたりできることに気付き、自分の長所を積極的に伸ばしていこうという意欲を育てる。

3 授業計画

【学習前の児童の姿】

本学級には、自分に自信がなく、長所についてなかなか答えられなかったり、「社会が好き」「釘打ち」など、表面に現れたできることを長所と捉えたりしている児童が多い。しかし、長所には内面的な部分にもあるはずである。日常生活や友達との交流の中で多様な個性に触れ、自分との違いに気付いたり、何かを成し遂げる過程で、それまで気付かなかった長所に気付いたり、それをさらに伸ばしていこうとする気持ちを高めたりしていきたい。

〈教材のこんな魅力〉【1時間完了】

- ・自信のなさや、周りと比べてしまっていることで、自分のよさに気付きにくくなってしまっていた主人公の思いが児童の実態と結びつくため、共感しながら物語を読み進めることができる。
- ・身近な友達関係の場面における物語であるため、主人公の姿を通して、「自分だったらどう感じるか」「どうすればよかったのか」などと、具体的に考えやすい教材である。



〈こんな手だてで〉

- ・児童が、保護者と一緒に自分のよさについて考える時間を設定することで、積極的によさを認めていこうと前向きな気持ちになることができる。
- ・本時を通して、学級活動等の時間に、自分のよいところを探したり、友達のよいところを探したりして、自分について考える時間をもつことができる。

【学習後の児童に期待する姿】

- ・自分の短所を認めて克服しようとしたり、長所を伸ばそうとしたりする気持ちを高めることができる。
- ・短所だと思っていたところも、長所へとつながることができることに気付いて、自分の短所も広く受け入れようすることができる。

4 本時の指導

（1）指導の構想

指導に当たっては、まず初めに「自分の長所とはどこか」を児童に問う。長所を答えられる児童とそうでない児童がいることが予想されるが、ここでは、自分の長所について考えたり、話し合ったりする学習の方向付けを行う。

展開前段では、児童と同様に自分の長所を見つけられないでいる主人公について触れ、教師が範読を行う。努力の継続によって長所を見つけることができた主人公の姿を通して、母親の「つくればいいでしょ」という言葉の受け止め方が変容していることについて、全体で考えて話し合う。

展開後段では、「もともともっていないくても、長所になるのか」と問い返すことで、今一度、長所について見つめ直し、努力次第で長所を新しく作ることができたり、もともともっていないものであっても長所に繋がったりすることに気付かせたい。

終末では、もう一度「自分の長所はどこか」と問い、保護者とともに自分のよさについて考える時間を設定する。自分で考えるだけでなく、友達からも自分のよさを伝えてもらうことで、児童自身が気付いていない視点から自分のよさを捉えられるようにする。授業の導入で考えていた、自分の長所について振り返りながら、それだけでなく、短所だと思っていたところも、努力すれば長所につながることに気付いたり、今まで気付いていなかった長所を発見したりすることにつなげたい。「自分なんて」というマイナス思考ではなく、自分のよさを積極的に認め、「自分にもよいところがあり、それを伸ばしていこう」とする思いを高められるようにしたい。

(2) 準備 (教師) 挿絵、ホワイトボード

(3) 学習過程

学習活動 (時間)	予想される児童の反応			※教師の支援
1 自分の長所を考える。 (3)	自分の長所はどんなところかな			※自分の長所について考えたり、ペアで話し合ったりすることで学習の方向付けをする。
2 教材文を読む。 (4)	・短所はたくさん見つかるけれど、長所はない。 ・分らない。	・社会が得意。 ・釘打ちが上手。	・友達に優しくできるところ。	
3 めあてを確認する。(1)	めあて 自分のよいところを見つけたりのばしたりするにはどんな考えが大切かな			
4 お母さんから「つくれぱいいでしょ」と言われたとき、わたしはどのように思ったかを考える。 (7)	お母さんから「つくれぱいいでしょ。」と言われた私はどのように思ったかな			
	・短所はたくさんある。 ・そんなことを言われても困る。	・愛子さんはいいなあ。うらやましい。	・自分のいいところはどんなところかな。	
	「わたし」は愛子さんと同じように走れるようになった自分をどう思っているかな			
5 走れるようになった自分について考える。 (7)	・あきらめなくてよかった。	・続けるとできるようになる。	・自分もこんなになんげれる。 ・これが私の長所かもしれない。	
6 お母さんから「つくれぱいいでしょ」と言われたとき、わたしはどのように思ったかを再度考える。 (10)	お母さんの「つくれぱいいでしょ。」の言葉をどのように受け止めたかな			
	・やり続けると長所になる。 ・自分が気付いていないだけで長所はあった。	・自分で長所をつくれぱいい。 ・得意でなくても長所になる。 ・好きなことや短所でも長所につながる。	・一つ長所ができたから、自信がついて、他のこともがんばれるようになる。 ・他にもあるかもしれない。がんばると長所になるかもしれない。 ・明るく過ごせる。	※【キーワードとなる児童の発言】 ・やり続けると長所になる。 【キーワードに対する切り返しの発問】 「長所があるといいことがあるのかな？」 ※【キーワードとなる児童の発言】 ・自分で長所をつくれぱいい。 【キーワードに対する切り返しの発問】 「もともと持っているなくても長所になるのかな？」 ※最初の「つくれぱいいでしょ」と対比して板書し、変容が分かるようにする。
7 自分の長所について改めて考える。 (7)	自分の長所についてもう一度考えよう			
	・お母さんに長所を教えてもらった。自分では気付いていなかった。	・自分には長所がないと思っていたけれど、よく考えたら長所がいろいろあった。友達に優しくできるところが長所だった。	・今がんばれば長所になるかもしれないということが見つかった。	※導入で出た自分の長所について立ち返らせ、再度自分の長所について考えさせる。 ※ペアやグループで話し合うことで、自分の長所について新しく気付くことができるようにする。
8 振り返り (6)	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返ろう			
	・自分には長所がないと思っていたけれど、あってうれしかった。	・苦手だと思ってもやり続けると長所になることが分かったから、いろんなことにチャレンジしていきたいと思った。	・長所ができると他のことにも自信がもてるようになることが分かったので、自分の長所を増やしていきたいと思った。	※今日の授業の中で分かったこと、新しく気付いたこと、友達の考えでよいなと思った意見について書くように声を掛ける。

(4) 評価

- ・長所は誰にでもあり、さらには長所をつくったり伸ばしたりすることができるという考え方に立って、自分の長所を積極的に伸ばしていこうという意欲を高めることができたか。(発言・ワークシート)